

# アレヴィの歌劇《クラリー》と第1幕カヴァティーヌの初版楽譜 水谷 彰良

《Clari》 di J.F. Halévy e la prima edizione di 《Come dolce a me favelli》 (I.Pleyel, Paris, 1830.)

Collezione privata di Akira Mizutani – Tokyo

(2011年5月作成。水谷彰良)

《クラリー *Clari*》 3幕のドランマ・ペル・ムジカ *dramma per musica in tre atti*

**作曲** ジャック・フロマンタル・アレヴィ (Jacques Fromental Halévy, 1799-1862)

**台本** ピエートロ・ジャンノーネ (Pietro Giannone, 1792-1872) 全3幕、イタリア語

**原作** ロドルフ・クロイツァー (Rodolphe Kreutzer, 1766-1831) 作曲の3幕のバレエ=パントマイム《クラリー、または結婚の約束 Clari, ou La promesse de mariage》(1820年6月19日パリ・オペラ座初演)のルイ=ジャック・ミロン (Louis-Jacques Milon, 1765-1849) による台本。

**初演** 1828年12月9日パリ、イタリア王立劇場 (サル・ファヴァール) Théâtre Royal Italien (salle Favart)

註：現存する2種の印刷台本には「12月8日初演」と記されている。これは当初8日に初演が予定されていたものが、何かの事情で9日に変更されたのであろう。この2種の台本はパリのルーレ社 (Roullet) から出版され、その一つはイタリア語とフランス語訳の2ヶ国語版でタイトル記載は「Clary. *Dramma per musica in tre atti* Clary. *Opéra en trois actes*」(Paris, Roullet, 1828)、もう一つはフランス語のみでタイトルが「Clary, *opéra en trois actes*」とあり (同前)、どちらも題名の表記は「Clary」である。しかし、パリのプレイエル社が刊行した初版楽譜 (下記) の題名は「Clari」で、パリのフランス国立図書館に所蔵される総譜 (完本ではない) からマルティン・ハイムガルトナー (Martin Heimgartner) が作成したクリティカル・エディションを用いたチューリヒ歌劇場の復活上演も「Clari」とする。面白いことに初版・初期楽譜の中では役名と歌詞の双方に「Clari」と「Clary」が混在し、フランス語における「y」と「i」が同一に扱われるとはいえ、一貫性の欠如には呆れるほかない。

## 作品について

ジャック・フロマンタル・アレヴィ (Jacques Fromental Halévy, 1799-1862) は、19世紀前半に活躍したフランスのオペラ作曲家である (代表作は《ユダヤの女 *La Juive*》1835年)。ローマ大賞を受賞してイタリアに留学すると、ナポリでロッシーニのオペラにふれて大きな影響を受けた。そして帰国後の1827年にパリのイタリア劇場の合唱指揮者 (*chef de chant*) に就任し、同劇場のためにイタリア語のオペラ・セミセリア《クラリー *Clari*》を作曲した (但し、第1幕クラリーのカヴァティーヌは留学中の作曲)。クラリー役は人気歌手マリーア・マリブラン (Maria Malibran, 1808-1836) のために書かれ、1828年12月9日にイタリア劇場で行われた初演も成功を収めたが、上演は翌1829年1月5日までの間に6回行われただけだった (1830年1月に改訂版により再演)。音楽はケルビーニとロッシーニの影響下にあり、マリブランは第2幕でロッシーニ《オテッロ》第3幕デズデーモナの〈柳の歌〉を挿入したという (DVDブックレットのチェチーリア・バルトリのコメント参照) 2。また台本に掲載された第3幕クラリーの大アリアは自筆楽譜に音楽を欠いており、バルトリは復活上演に際してアレヴィ《ラ・テンペスタ *La tempesta*》(1850年) ミランダのカヴァティーヌを歌っている。この復活上演はバルトリの希望で2008年5月にチューリヒ歌劇場で実現し (初日は5月23日)、同年8~9月の再演を収録したDVDも発売されている (下記)。

## あらすじ

公爵から求婚された貧しい農家の娘クラリーは、戸惑いながらも承諾する。公爵は友人たちを集めてクラリーの誕生パーティを催すが、彼女を姪として紹介する。そして召使たちに余興の劇を上演させると、劇中の父親が娘を非難するシーンを見たクラリーは恐怖にかられて精神的におかしくなる (彼女は家出同然に親元を離れ、公爵のもとに身を寄せていた)。気を失ったクラリーは目覚めると自殺を決意し、公爵の屋敷から失踪する。

クラリーを真に愛していることに気づいた公爵は、彼女の行方を探す。一方クラリーが両親の住む貧しい家にこっそり戻ると、父は娘を失った寂しさから死のうとしていた。クラリーは思わず父の前に飛び出して詫言すが、頑なな父は娘を許そうとしない。そこに現れた公爵が正式にクラリーに結婚を申し込むので、父もこれを許す。

クラリーは皆に祝福され、結婚の喜びにひたる。

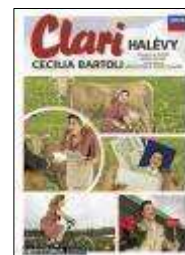
## 上演 DVD 2008年10月チューリヒ歌劇場上演ライブ

パトリス・コリエ&モーシェ・ライザー演出

アーダム・フィッシャー指揮チューリヒ歌劇場シンティツラ管弦楽団 クラリー：チェチーリア・バルトリ

公爵：ジョン・オズボーン、ベッティーナ：エヴァ・リーバウ)、ジェルマーノ：オリヴァー・ウィドマーほか

Decca 074 3382 (DVD 海外盤)



## 《クラリー》の初版・初期楽譜について

アレヴィ《クラリー》の初版楽譜は、1830年にパリのプレイエル社が刊行したヴォーカルスコアである（以下、《クラリー》の印刷楽譜に関する記述は筆者の独自研究に基づく）。その完本を所蔵する図書館はまだ見つけ出せずにいるが、筆者はプレイエル版の第1幕クラリーのカヴァティエヌ〈なんと甘美に私に話しかけるの（Come dolce a me favelli）〉（第2曲）の楽譜を所蔵しており、そのプレート番号2536から刊年は1830年と特定しうる<sup>3</sup>。ちなみにプレイエル版《クラリー》の楽譜が世界的にも稀少であることは、イタリアの図書館における所蔵がナポリのサン・ピエートロ・ア・マイエツラ図書館所蔵の1曲のピース「Qui prostrata e palpitante : recit et priere chante par M.me Malibran dans Clari」のみであることでも判る（Arie App. H 34.5.119.<sup>4</sup> 不思議なことに、最も可能性の高いパリのフランス国立図書館目録を検索しても《クラリー》の楽譜は出てこない）。

プレイエル社は1834年6月に廃業し、同社の音楽資産と原版はパリの複数の楽譜出版社が買い取った。《クラリー》の権利と原版はリショー社（Richault）の所有となり、同社は1836年にそのヴォーカルスコアを出版している。筆者の調べでは、このリショー版は次の図書館の所蔵が確認できる（目録での題名はすべて《Clary》）。

大英図書館（British Library）：H.546.p.	註：1830年頃との刊年推定は明らかに誤り。
米国議会図書館（Library of Congress）：M1503.H168 C6	註：刊年推測なし。
ボストン公立図書館（Boston Public Library）：M.292.15	註：刊年は1835年とされる。

デジタル複製が公開されているボストン公立図書館の《クラリー》（リショー版）と筆者所蔵の楽譜（プレイエル版No.2）を比較すると、題字と楽譜部分の完璧な一致が認められる。これはリショー社がプレイエル社の原版を用いて出版社記載とプレート番号を差し替え、新たな頁番号（ヴォーカルスコア全体の通し番号）を追加した結果である（次の図版参照）。これがプレイエル版⇒リショー版への移行であってその逆でないことは、リショー版のプレート番号「3347 R.」から刊年が1836年と見なされることでも明白である<sup>5</sup>。



I.Pleyel,Paris,1830.,N.di lastra:2536.



Richault,Paris,1836.,N.di lastra:3347 R.

プレイエル版カヴァティエヌのタイトル記載は次のとおり——「COME DOLCE A ME FAVELLI / CAVATINE / Chantée par M.me MALIBRAN / dans CLARI. / Musique de F.HALÉVY / Prix 5.f / A PARIS, chez I.ce PLEYEL et C.ie, Boulevard Montmartre./ [N. di lastra] 2536」。

前記のように、1834年6月の廃業によりプレイエル版《クラリー》がきわめて稀少であることから、次に筆者所蔵のカヴァティエヌ〈なんと甘美に私に話しかけるの（Come dolce a me favelli）〉の楽譜を複製しておきたい。ちなみに筆者所蔵の楽譜にはカデンツァとヴァリエーションの書き込みがそれぞれ一箇所あり、当時の演奏実践の一端を知る手がかりとなる（カデンツァは p.5 プリモ・テンポ末尾「palpitar」、ヴァリエーションは p.10.冒頭）。カデンツァの部分拡大すると、次のようになる。

### p.5におけるカデンツァの書き込み



《クラーク》第1幕クラークのカヴァティーヌ複製（プレイエル版初版、1830年。水谷彰良所蔵）

1 spartito ([1], pp. 2-14), 33×25.5 cm) : Come dolce a me favelli / Cavatine / Chantée par M.me Malibran / dans Clari. / Musique de F. Halévy / Prix 5.f / A Paris, chez I. ce Pleyel et C. ie, Boulevard Montmartre. / [lastra] 2536

[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo]

2

COME DOLCE A ME FAVELLI.  
CAVATINE  
Chantée par M<sup>me</sup> MALIBRAN,  
dans CLARI.  
Musique de F. HALÉVY.  
Prix 5.<sup>f</sup>  
A PARIS, chez I<sup>ce</sup> PLEYEL et C<sup>ie</sup>, Boulevard Montmartre.

Adagio.

N<sup>o</sup> 2.  
PIANO.

2536

2536

2536

2536



17

questa mi a fi - li - ti - ti que - ra  
 mi a fi - li - ti - ti de - i tu - ti  
 de - i - fal - sifi - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -

2554

18

non po - tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -

2555

19

non po - tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -

2556

20

non po - tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -  
 tui - mus - cavi - te - ra non po -

2557



**Akira Mizutani**

- 1 パリのフランス国立図書館（Bibliothèque nationale de France）の蔵書検索による。
- 2 DECCA 074 3382（DVD）
- 3 プレイエル社の印刷楽譜のプレート番号による刊年推定は Devriès, Anik / Lesure, François, *Dictionnaire des éditeurs de musique français., vol. I*, Éditions Minkoff, Genève, 1979., p. 130. に基づく。
- 4 ICCU 目録（OPAC SBN - Istituto centrale per il catalogo unico）の蔵書検索による。
- 5 リショー社の印刷楽譜のプレート番号による刊年推定は Devriès, Anik / Lesure, François, *Dictionnaire des éditeurs de musique français., vol. II*, Éditions Minkoff, Genève, 1988., p. 369. に基づく。なお、ボストン公立図書館所蔵目録における刊年推定は 1835 年。